

テレビにおける職業描写  
—幼児に人気のある番組の内容分析—

長崎真梨恵\*・田島 祥\*\*・坂元 章\*

Occupational Portrayals on  
Television  
—Content Analysis of Programs which  
are Popular with Infants—

Marie NAGASAKI, Sachi TAJIMA,  
and Akira SAKAMOTO

Vocational education emphasizes the importance of proper knowledge of occupations. However, the source of our occupational knowledge usually relies on television. In this study, the contents of 76 TV programs which were popular with infants were analyzed, and the characteristics of 1773 workers' occupations portrayed there were coded. The result revealed that NEETs, part-timers, and blue-collar workers were rarely portrayed in the programs, while professionals and public or private security guards were frequently portrayed. The type and extent of occupations which appeared in the programs was very different from the number in real society.

**Key words:** content analysis, television, occupation

1. 目 的

近年、若年者を中心としたフリーターやニートの問題が注目され、職業教育の必要性が叫ばれている。職業観の発達には、幼児期からの教育的介入が効果を持ち、メディアもその一端を担うと考えられる。また、職業についての知識の多くが、テレビによってもたらされることも指摘されている。

テレビと職業観に関する先行研究では、職業描写の偏りが、子どもに性役割へのステレオタイプをもたせたり、特定の職業について現実的ではない知識をもたらすなどの影響が指摘されてきた。しかし、実際のテレビ番組に、どのような情報が、どのくらい含まれているかを検討した研究は乏しい。本研究では、テレビ番組以外には、多様な職業との接触を持つ機会が少ないと考えられる幼児が視聴する番組を対象に、以下の2つの観点から職業情報の特徴を検討していく。

- (1) 職業従事者の雇用形態、職業はどのようなものか。
- (2) 登場する職業の描写はポジティブか、ネガティブか。

2. 方 法

**対象番組** 2006年3月9日から15日に放送された番組で、NHK放送文化研究所(2007)の調査で、3歳児の視聴率が5%以上とされた番組を対象とした。同名番組が複数回放送されている場合にはランダムに1番組を選出し、最終的に76番組(NHK38番組、民放38番組、計1820分)を評定した。

**評定項目** 番組に登場する人物・キャラクターが従事する職業について、以下の項目を設けた。なお、本研究で扱う職業は、必ずしも、登場人物・キャラクターの本職ではなく、番組内容上の役どころである。例えば、刑事役のドラマでは、本職が俳優であっても刑事として評定した。

(1) 職業従事者の雇用形態、職業はどのようなものか。登場人物・キャラクターの「雇用形態」について、「正規」か「非正規」か、もしくは判断できるシーンがなく「不明」であるかを評定するとともに、職業に従事しないものも、その「身分」が「主婦」、「学生」、「ニート」、「その他無職」、「不明」のいずれに該当するか評定した。さらに、職業従事者については、1995年SSM調査の職業分類表(盛山・原, 2006)を用いて「職業」を評定した。職業分類表は小学校教員、販売店店員など188通りの職業を含み、表1に示す職業大分類(総務省, 2005)と対応している。

(2) 登場する職業の描写はポジティブか、ネガティブか。従事する職業の描写に関する8項目(「表情」、「給与・生活水準」、「職場の人間関係」、「職業への態度」、「職場の環境」、「労働条件」、「社会とのかかわり」、「他者からの評価」)を設け、「ポジティブ」であるのか、「ネガティブ」であるのかを評定した。判断できるシーンがない、肯定的でも否定的でもないなど、中立的と判断された場合には「どちらでもない」を選択した。

**手続き** あらかじめ番組内容の転換に合わせて、対象番組をシーケンス(いくつかのシーンを寄せ集めた一続きの映像)に分割した。各シーケンスで登場時間、役割の点から判断して、主要な順に最大5人の登場人物・キャラクターを選択し、CMを除いた1,050のシーケンスについて評定した。評定者は大学生17名で、評定方法についての研修を受けた後、自宅で作業を行った。なお、対象番組の約2割の16番組は一致率算出のため、2名による評定が行われた。登場人物・キャラクター選出の一致率は、76.41%であった。また、各評定項目の一致率については、職業描写の1項目(「表情」)が63.22%と、とくに低かったため分析の対象外とした。他の項目の一致率は、78.93~97.93%であった。

\* お茶の水女子大学  
Ochanomizu University

\*\* 日本学術振興会  
Japan Society for the Promotion of Science

### 3. 結 果

1,050 のシーケンスで延べ2,970の人物・キャラクターが登場し、うち延べ1,773人の職業従事者が評定された。

#### (1) 職業従事者の雇用形態、職業はどのようなものか。

「雇用形態」は、職業従事者の64.83%が「不明」であった。また、今日の日本では、フリーターや派遣社員のように、非正規での就業者が増加しているとされるが、テレビ番組では、そのような雇用形態はほとんど見られなかった(正規21.8%, 非正規0.56%, 自営業4.11%)。また、職業に従事していない人物やキャラクターのうち、「主婦」は4.51%、「学生」は37.84%で、問題化している「ニート」はわずかに1.42%であった。

また、職業従事者の「職業」については、分類可能な58通りの職業が報告された。これを、平成12年国勢調査の職業大分類(総務省, 2005)に従って9の職種に分類して集計した結果を表1に示した。なお、本研究では「分類不能の職業」が多いが(53.67%)、これらは一般的には職業を持っていないと認めるのが困難なキャラクターや動物が多く見られるため、割合の算出はこれらを除いて行った。表1には、平成12年の国勢調査の結果とともに、テレビ番組内と国勢調査における職種の割合を比較するため、 $\chi^2$  検定を行った結果もあわせて記した。

表1の結果から、テレビ番組と現実の間では、職種の構成割合に隔たりが見られた。とりわけ、「専門的・技術的職業従事者」、「保安職業従事者」が現実よりはるかに高い割合で登場するのがテレビ番組の特徴であった。また、平成12年の段階で最も従事者が多いとされた「生産工程・作業労働者」は、テレビ番組で扱われることが最も少なかった。

#### (2) 登場する職業の描写はポジティブか、ネガティブか。

「職業描写」は、一致率の低かった「表情」を除く7項目で全体的に中立的な描写が多く(「どちらでもない」69.79~91.66%)、肯定的(「ポジティブ」は6.02~30.31%)か否定的(「ネガティブ」は0.91~5.16%)かを

判断できる情報が少なかった。なかでも、「ネガティブ」な描写は非常に少なかった。さらに、職種ごとに「職業描写」の7項目で「ポジティブ」、「ネガティブ」であった項目数の平均をそれぞれ算出した。その結果、ポジティブの得点は0.00~1.57、ネガティブの得点は0.00~1.09であり、職種による差もあまりなかった。

### 4. 考 察

幼児が視聴するテレビ番組においては、フリーター(「雇用形態」が「非正規」)やニートの登場は少なく、テレビ番組がこれらを肯定する職業観の発達を促すものとなっているとは考えにくい。

しかし、テレビ番組と、現実の間では、職種構成が大きく異なっていた。理由の一つとしては、アナウンサーや俳優のような、テレビ番組特有の職業が「専門的・技術的職業従事者」の割合を高くしていることが考えられる。ただし、この職種に含まれる教員や建築・土木技術者(それぞれ専門的・技術的職業従事者の10.49%, 3.25%)なども相当数あり、現実では多いにもかかわらず、テレビ番組ではほとんど登場しない「生産工程・労働作業」とは対照的なものとなっている。このような現実とのずれは、特定の職種に就く労働者を過大、過小に見積るといったようなステレオタイプをもたらす可能性を示唆する。今後のテレビ番組は、幼児にもっと偏りなく多様な職業の情報を与えるものになってよいのではないかと考えられる。

また、職業描写の好ましきについては、職業は多くの場合中立的に描かれており、ネガティブに描かれることは非常に少なかった。このことから、テレビ番組が幼児の職業観を非好意的なものにするとは言えないように見える。

以上のように、本研究によって、幼児が視聴するテレビ番組においては、フリーターやニートの描写、さらには、職業描写の好ましきよりも、描写される職種の構成に議論がありうるものが示されたのではないかと考えられる。幼児は、テレビ番組以外に豊富な職業情報を得る機会は少ないために、本研究の結果は少なからず意味を持つであろう。しかし、テレビ番組に含まれる職業情報については、他の年齢を対象とした研究も必要だと考えられる。

### 引用文献

- NHK 放送文化研究所 (2007) “子どもに良い放送” プロジェクト第4回フォローアップ調査報告書。  
 盛山和夫・原 純輔(監修)(2006) コード・ブック; 基礎集計表, 東京: 日本図書センター。  
 総務省統計局 (2005) 平成12年国勢調査報告。  
 (受稿: 2007.7.4, 受理: 2007.10.29)

表1 テレビ番組に登場する職種と国勢調査結果

	n	従事者の割合 (%)	
		テレビ番組	国勢調査
専門的・技術的職業従事者	553	67.36	13.5**
管理的職業従事者	23	2.80	2.9
事務従事者	22	2.68	19.2**
販売従事者	45	5.48	15.1*
サービス職業従事者	25	3.05	8.8
保安職業従事者	108	13.15	1.6*
農林漁業作業	30	3.65	5.0
運輸・通信従事者	11	1.34	3.6
生産工程・労働作業	4	0.49	29.3**
分類不能の職業	951	—	—

注: nは評定対象数 \* $p < .05$ , \*\* $p < .01$